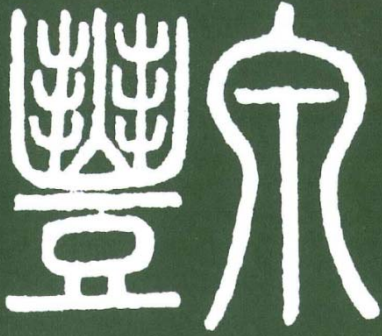
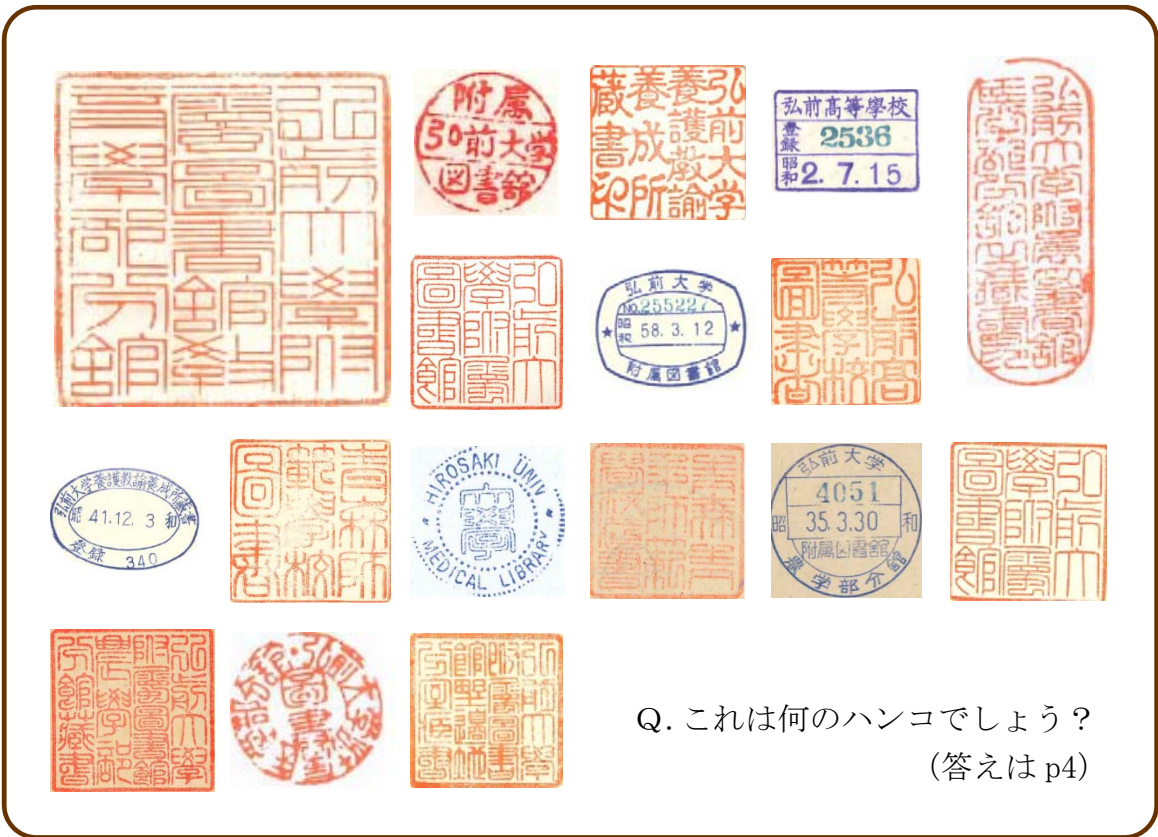


ほうせん



豊泉（ほうせん）とは 本学図書館が「汲めども尽きぬ豊かな知の泉であるように」との思いから、松原邦明名誉教授により名づけられました。（出典：明治9年『仏国学制』（文部省翻訳・出版）附録上巻「学校ニ於テ教フル所ノ学科ノ外ニ、又人智ヲ広ムルノ豊泉アリ」



特集 1：図書館ヒストリア -弘前大学創立 70 周年&図書館報 50 号記念企画-
特集 2：第 5 回POPコンテスト受賞者発表

- 02 巻頭言 「教養と図書館」(弘前大学理事 渡邊淳平氏)
- 09 本との出会いを楽しむ〈第 23 回〉社長の本棚 「学問の散歩道」
(マイクロソフトディベロップメント株式会社 代表取締役社長 榊原 彰氏)
- 10 Library's Half Year
- 11 寄贈図書紹介
- 12 図書館員ちよこっとコラム&編集後記

No.50

『教養と図書館』

理事（総務担当）・副学長・事務局長 渡邊 淳平

昭和59年文部省採用。文部科学省研究振興局学術研究助成課長、独立行政法人日本学術振興会理事等を経て平成30.4.1より現職。



教養と図書館のいずれにも縁遠い人生を送ってきてしまいました。それへの後悔の気持ちを込めて書いています。

弘前に来てから、思い切ってお茶を習うことにしました。前から多少興味はありましたが、習い始めてみると幅広い教養が必要であることに気づかされます。お茶では、手前の所作を覚えることも必要ですが、むしろ、喫茶をとりまくしつらえの全体が重要とされています。例えば、茶席に掛ける軸、花、道具の取り合わせといったものですが、季節はもちろんのこと、茶席の趣旨などに応じて考える必要があります、そこに込められた亭主の意図を客が理解しての会話のやりとりが醍醐味ということになります。掛軸一つとってみても、禅語からくるものであれば、まずその知識が必要であり、またそもそも判読できないといけません。ということで、いろいろと勉強を始めたわけですが、自身の基本的な教養のなさに改めて気づかされます。

教養は、こうした私生活面を豊かにしますが、社会的にもますます重要になっていると考えます。最近世界的に社会全体が順調ではなく、政治や企業経営などの面における舵取りが難しくなっています。そうした時にこそ、トップとしての判断には教養の裏付けが求められるはずですが、また、社会全体に教養がおろそかになれば、その発展は望めないでしょう。

現在では、ICTの発展により、様々な情報を得ることが容易になっていますが、情報量が多過ぎて質的にも玉石混淆という問題を抱えています。本やその集まりである図書館はネットに比べて旧来型の手法ではありますが、出版というスクリーニ

ングを経ていることもあり、本から得られる情報には一定の質の高さがあると思われれます。また、バラバラと概観する、隣にあるものもついでに手にしてみるといった点では、本や図書館の方がまだまだ優れています。ネットは広範な検索と情報入手の即時性に圧倒的な力を発揮しますが、深みや広がりにおいては、まだ本や図書館の優位性がありそうです。ですから、特に若い学生の皆さんには、在学中に図書館で多くの時間を過ごしてもらいたいと思います。

図書館は古くから、知識を集めることにより、結果として社会の教養を高めてきたわけですが、これからの図書館には、より積極的に教養を高めるための役割を果たしてもらいたいと思います。お茶の話に戻りますが、茶席に活ける花は花屋にあるようなものと違って名前を知らないようなものが多くなります。最近、スマホで花の写真を撮ると画像解析して名前の候補を提示してくれるというアプリを見つけました。なかなかの精度です。ICTの恩恵ですが、日本で開発されたものでないために、和名に弱いところがあったりします。また、古文書の写真から何という漢字かを判読するサイトも見つけましたがまだまだ実用的ではないようです。こうしたものが手軽になれば、教養を高めることに役立つことは間違いありません。技術的には十分可能なので、要はどこかが中心となって取り組むかどうかということかと思っています。文化庁というより、全国の図書館、中でも大学図書館が、社会の教養を支え高めるといふ新しい使命をもって、その活動範囲を拡げていく方が楽しい結果を生むような気がします。

図書館ヒストリア

令和元年 5 月 31 日、弘前大学が創立 70 周年を迎えたとともに、附属図書館も 70 周年を迎えました。そこで今回は附属図書館の 70 年の歴史を振り返ってきたいと思います。

附属図書館の産声

1949 年（昭和 24）、新制弘前大学創設と同時に発足した附属図書館は、旧制弘前高等学校図書課を本館とし、旧制青森師範学校図書館を教育学部分館、旧制弘前医科大学図書館を医学部分館、旧制青森青年師範学校図書係を野辺地分校分室の 4 館体制でスタートしました。

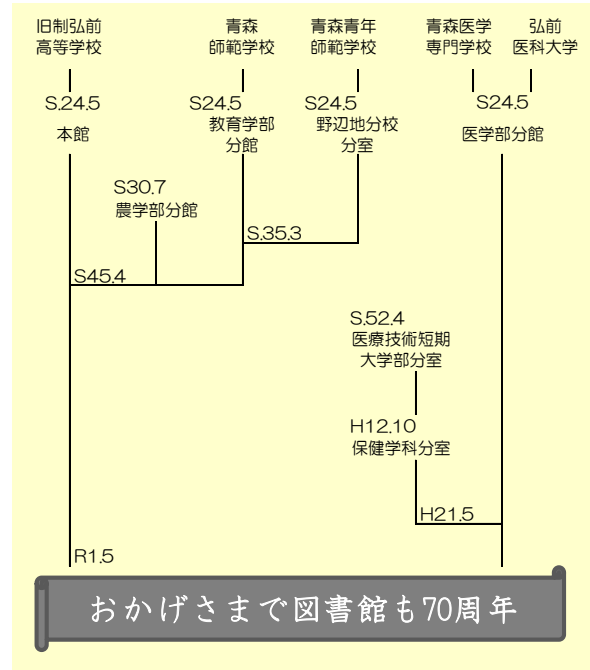
前身校の生い立ち

旧制弘前高等学校図書課は 1920 年（大正 9）設置。寄宿舎である北溟寮が同一構内にあったため、閲覧室は午後 9 時まで満席であることが多く、生徒のための学習図書館としての機能を担っていたようです。

旧制青森師範学校図書課は 1943 年（昭和 18）に青森市に設置されたものの、ほどなくして戦局は悪化。1945 年（昭和 20）7 月の青森市空襲により校舎を焼失したため、和漢書 1 万 349 冊、洋書 100 冊を失いました。しかし、疎開によって焼失を免れた約 3800 冊を携えて 1946 年（昭和 21）に弘前市へ移転、戦災復旧のため卒業生から寄附を受けた約 3000 冊を加えて再出発しました。

旧制弘前医科大学附属図書館は 1948 年（昭和 23）に設置されましたが、1944 年（昭和 19）に青森市に設置された青森医学専門学校の蔵書が基礎となっています。戦前は、戦局の深刻化により新刊書籍は配給制でしたが、新設校である同校では授業とは無関係な分野の書籍が配給され、医学書に関しては古書の購入が中心となりました。戦後になり、弘前医科大学が設置された後も、特に医学関係のバックナンバーの整備を重点として蔵書の充実が図られました。

旧制青森青年師範学校は 1944 年（昭和 19）に設置された後、1945 年（昭和 20）に若干の農業関係書を持って上北郡野辺地町に移転、1948 年（昭和 23）に図書係が設置され、校舎の一部に閲覧室と書庫を設け職員 1 名を置いて業務を開始し、これがのちに弘前大学野辺地分校分室の基礎となりました。



おかげさまで図書館も 70 周年

支えられて 70 年

新制大学発足とともに前身校の蔵書を引き継いで誕生した弘前大学附属図書館。母体となった学校が戦災に遭い設備や図書をほとんど失っていた上に、発足後もまずは教育に必要な教材・器具の整備が急がれ、図書館資料はどうしても後回しになりました。しかし外部からの援助として青森県国立大学設立期成協力会（後の弘前大学後援会）等の寄付によって資料の充実が図られ、発足当時には約 5 万 3 千冊だった蔵書数は 70 年の歳月と共に現在約 83 万冊となりました。

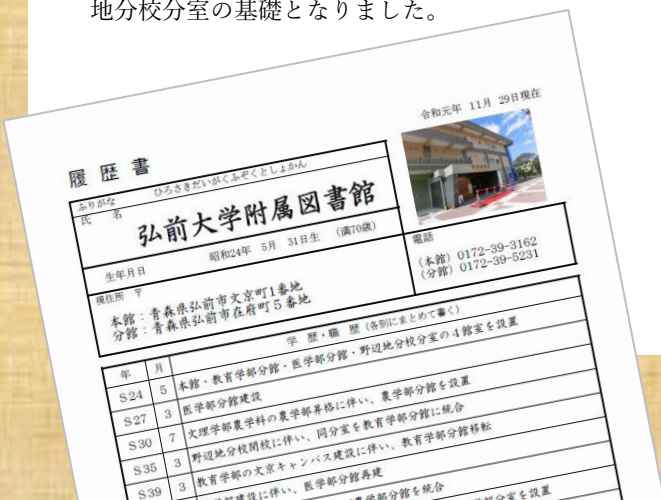
歴史とともに

大学と共に歴史を刻んできた附属図書館では、今現在もなお、これらの引き継いだ資料を大切に保管しており、それぞれの資料には職員が一つ一つ受入した際の蔵書印や登録印が残されています。私たち附属図書館職員は、それらを見ながら大学が歩んできた道のりに思いを馳せますと、沢山の方々のご努力・ご援助により今日の附属図書館があることに感謝の想いを表せずにはられません。そして、そのことをしっかりと胸に刻み、さらなる発展を求めて 71 年目の歩みを進めてまいりたいと思います。

>>>> 次のページでは様々な角度から図書館の歴史を振り返ってみたいと思います。



←図書館の履歴書を詳しく見たい方はコチラへ！



1949.5

・開学 & 附属図書館設置

1952.3

・医学部分館建設

1955.7

・農学部分館設置

1960.3

・野辺地分校閉校により分室を教育学部分館に統合

1964.3

・教育学部（弘前公園内）の
文京キャンパス移転

1968.3

・医学部建設に伴い
分館再建（現在の建物）

1970.4

・本館建設（教育学部分館及
び農学部分館を統合）

1977.4

・医療技術短期大学部設置
に伴い、医短分室設置

1984.3

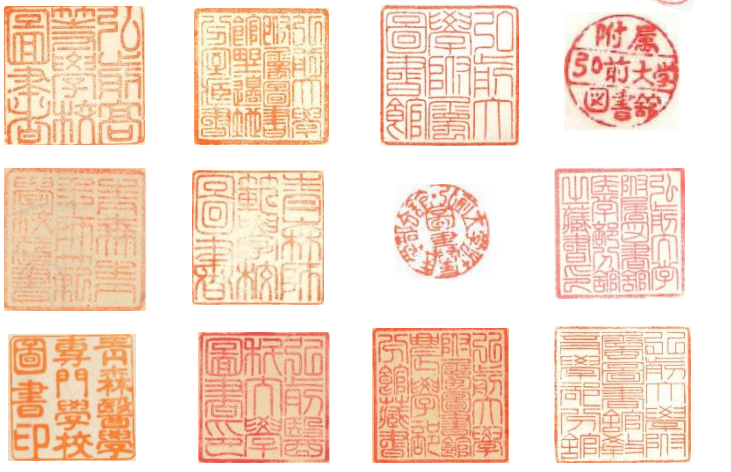
・本館増築（現在の雑誌棟）

1986.3

・図書館システム導入（電算化）

～蔵書印から見える図書館の歴史～

附属図書館の蔵書には、前身校のものを含め各館の蔵書印が押されています。本の内側に付されたそれらを集めてみました。どの館のものか、是非観察して当ててみてくださいね！



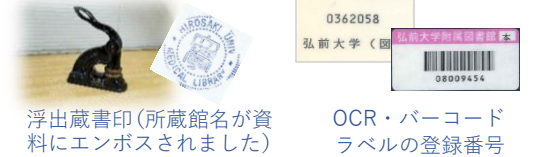
上段左より：弘前高等学校,野辺地分校,本館（方印・円印）
中段左より：青森青年師範学校,青森師範学校, 医学部分館（円印・方印）
下段左より：青森医学専門学校,弘前医科大学,農学部分館, 教育学部分館
右上：医学部分館（楕円印）

～図書館職員の仕事の跡～

資料の登録作業も、時代を追うごとに変化してきました。1986年の図書館システムの導入により、図書には登録印にかわり OCR やバーコードラベルで登録番号が貼付されるようになりました。



旧制弘前高等学校の登録印
登録印と背ラベル（青:和書 赤:洋書）



浮出蔵書印（所蔵館名が資料にエンボスされました）
OCR・バーコードラベルの登録番号

～過ぎし日の図書館～

昭和初期には手書き原簿と和文・欧文タイプライターを駆使し目録カード*を作成していました。蔵書印と背ラベルも和書は紺色、洋書は赤色で区別していましたが、電算化後は紫色に統一され、洋書には赤色の「洋」印が押されています。（職員Yさん談）*目録カードの説明は次頁へ

～記念すべき登録第1号図書 「実は…」～

本館（当時は旧制弘前高等学校）の登録第1号はこの『平家物語評釈』。（1921.3.10 登録）沢山使われていたと見え、修理製本して現在も本館で所蔵しています。

かつて図書館には製本室があり、独自で製本を行っていましたが、修理するときに表紙の天地（上下）を逆につけてしまった跡が見られます。



幻の蔵書第1号
医学部分館

医学部分館（当時は青森医学専門学校）の蔵書第1号は『輝く肇国』（1944.5.18 登録）でした。しかし、GHQ から「備付不相当」として焼却処分を命ぜられ、1946年3月21日に除籍処分されてしまったことが、図書台帳から分かります。

70周年にちなんで

70...700...7000...70000 キリ番を探せ！

「キリ番」の登録番号を持った資料を探してみました！

- 第70号（青森医学専門学校→医学部分館）
『日本伝染病学会雑誌』第6巻（1944.8.18 登録）
- 第700号（農学部分館→本館）
『臨床獣医外科』（1952.9.13 登録）
- 第7000号（旧制弘前高等学校→本館）
『人文地理学概論』（1934.5.11 登録）
- 第70000号（本館）
『農学成立史の研究』（1967.7.1 登録）

1993.10

・附属図書館報『豊泉』創刊

1996.3

・図書館ホームページ開設

1996.4

・日曜開館スタート

2000.10

・保健学科設置に伴い
保健学科分室に改称

2002.4

・電子ジャーナル導入

2004.4

・国立大学法人化

2008.5

・学術情報リポジトリ公開

2009.5

・医学部分館改修
・保健学科分室と統合

2011.11

・デジタルアーカイブ公開
第1号「津軽領元禄国絵図写」

2014.10

・本館改修&リニューアル

2019.5

・弘前大学創立七十周年

東北地区の大学・初!

図書館も70周年!

～今じゃ当たり前のアレが～

今でこそインターネットですぐに資料の所蔵場所や必要な文献情報・論文に辿り着くことができますが、その昔はどうだったのでしょうか?

図書館にコンピューターが入る前、同じ役割を果たしていたのは、目録カードや冊子体目録でした。

目録カードは、基本・分類・書名・著者名の各種のカードが入った小さな引き出し(カードボックス)に規則に基づいて配列され、それらを引き出して必要とする資料の情報や所在を検索していました。

この引き出し、時々、雑誌などで見かけませんか?



冊子体目録。左から「増加図書目録」「学術雑誌目録」「逐次刊行物所蔵目録」

～古地図片手に津軽の旅～

2008年8月、官立弘前高等学校関係資料の整備作業中に、郷土資料の書庫から偶然発見された「津軽領元禄国絵図写」は、デジタル化され、附属図書館HPから誰でも閲覧できるようになっています。



岩木山に登ってスマホで絵図を開いて眺めてみたら結構面白いかも?

～電子ジャーナルと電子ブック～
～学術情報リポジトリ～

図書館は建物と資料だけが図書館ではありません。今やアナタのPCやスマホが図書館です。

2002年4月の導入以降、整備を続けた現在では約7000種類の雑誌と約5000種類の電子ブックが利用できます。端末を開けばもうすでにそこはバーチャルな図書館なのです。

2008年5月から開始した「弘前大学学術情報機関リポジトリ」は現在約6000件のコンテンツが公開され、誰でも無料で閲覧することができます。また2011年2月からは「ひろさき地域共同リポジトリ」で市内の大学・短大共同で研究成果の公開も行っています。

インターネットの出現により……

1995年から、オンライン検索サービスが開始。本館に設置された検索用サーバには各種データベースのCD-ROMがセットされ、総合情報処理センター(当時)のLAN設備を介して全学から情報検索することが可能になりました。



目録カードとカードボックス

～広報活動のあゆみ～

利用者の皆さんと私たち図書館をつなぐもの。現在の図書館報が誕生する前にも様々な刊行物が作られました。

ガリ版刷りやワープロ原稿の1ページ1ページに、当時携わられた方の想いを感じ取ることができます。



左から「図書館短報」「THE NEPUTA」「Library Today」

～創刊50号・私たちが受け継いでいくもの～

図書館報『豊泉』1993年10月に創刊。第1号には、松原邦明附属図書館長(当時)の「利用者とのコミュニケーションの拡大とサービスの充実発展を図る方途」の1つとして図書館報を位置づけた発刊趣旨が掲載されています。

50号を迎えた今、今後もこの発刊趣旨に沿いながら、利用者の皆さんとのコミュニケーションツールとして楽しんでいただけるような図書館報を作りたいと思います。



豊泉 No.1



豊泉 No.26



豊泉 No.29



豊泉 No.40



豊泉 No.50

～クイズ・図書館ヒストリア その2～ 附属図書館本館内の案内版などにデザインされている「こぎんざし」の図案名は何?……答えはP.12

第5回弘前大学附属図書館 POPコンテスト 受賞者発表

御朱印



弘前大学附属図書館では、今年度も図書館の利用促進及び読書推進を目的としてPOPコンテストを開催いたしました。第5回を数える今回は計25点の応募があり、作品は全て該当図書と共に図書館（本館）2階の特設コーナーに展示されました。そして、図書館利用者（一般利用者を含む）からのシール投票、およびWebページからの投票によって、全6作品の入賞が決定いたしました。

表彰式は11月13日（水）に本館アクティブ・ラーニング・エリアにて行われ、それぞれの受賞者に館長から表彰状が手渡されました。



今回は、鉛筆の繊細なタッチで似顔絵を描いて『青森あるある』をアピールした教育学研究科2年工藤由紀さんが大賞を受賞しました。優秀賞はフリー素材を巧みに使用して『図書館戦争』を紹介した人文社会科学部3年の助川絵音さんが受賞しました。

また、今回もサンライズ産業株式会社様にご協賛いただき、特別賞としてサンライズ産業(株)賞を設けました。サンライズ産業(株)賞は、

カラスのイラストを添えて親しみやすいように工夫した農学生命科学部3年津村隆宏さんの『カラス学のすすめ』が選ばれました。

表彰式では、受賞者からの喜びの声やこの本を選んだ理由や、「ぜひこの本を読んで欲しい」という思いが語られました。



受賞作以外にも、カラフルなイラストを用いたPOPや、文章で熱意を伝えるPOP、手書きの味が伝わるPOP、デジタルで工夫を凝らしたPOPなど、たくさんの作品の応募がありました。



館長(前列右)
サンライズ産業(株)工藤代表取締役(前列左)
工藤取締役管理部長(後列左)及び受賞者

受賞作品 & 受賞者コメント



大賞



教育学研究科2年 工藤 由紀

『青森あるある』長内三八郎著

今回このような素晴らしい賞をいただき、大変嬉しく思います。企画・協賛いただきました関係者の皆様、そして投票して下さった皆様に心から御礼申し上げます。私は、教職大学院在籍の現職の中学校教員ですが、勤務校の図書室にもあるこの本をぜひ生徒にも読んでもらいたいと思い、中学生が思わず手に取りたくるような POP を目指して書いたのがこの作品です。今回の受賞をきっかけに、今後もより一層、読書を推進していきたいと思っています。

優秀賞



人文社会科学部3年 助川 絵音

『図書館戦争』有川浩著

第5回 POP コンテスト優秀賞という素晴らしい賞を受賞できたこと、大変嬉しく思います。ありがとうございます。

有川浩さんの『図書館戦争』という小説は、私が本を読むことの楽しさを知るきっかけとなった本です。読書離れやストレスを抱える現代で、少しでも多くの人々の手に『図書館戦争』という作品が手に取られ、心が豊かになったと感じる人が増えれば幸いです。また、読書の楽しさを思い出す手助けになればと感じます。

サンライズ産業(株)賞



農学生命科学部3年 津村 隆宏

『カラス学のすすめ』杉田昭栄著

サンライズ産業(株)賞に選んでいただき、大変光栄です。「カラス学」と聞くと堅苦しく感じる方も少なくはないと思いますが、この本を実際に読んでみるとそこまで難しいことは書かれておらず、生物学に精通していない方でも読みやすくなっています。POP に可愛らしい絵柄のカラスがいることで、「学問は難しい」というイメージを持っている方でも手に取りやすくなるのではないかと思います。挑戦してみました。とても面白い本なので、皆さんぜひ読んでみてください。

佳作

人文社会科学部3年 横山 由衣

『文具上手』土橋正著

この度は、私の作品を表彰して頂き誠にありがとうございます。
このコンテストには、自分の力を試すつもりで応募しました。この作品を佳作にお選び頂いたことで、自分に自信をつけることが出来たと思います。この度ご紹介した本は、様々なご職業の方々の文具術を紹介した一冊です。このPOPは、私のような文具好き女子大生の目に留まればと思い作成しました。このPOPで、多くの方がこの本を手にとって下さっていただければ幸いです。

佳作

人文社会科学部1年 前田 瑞紀

『かがみの孤城』辻村深月著

この度の第五回POPコンテスト佳作受賞、大変嬉しく思います。ありがとうございます。『かがみの孤城』を初めて手に取ったときは思わず、「長すぎて読み切れないかも」と感じました。しかし、いざ読み始めると、不思議な世界観と登場人物のリアルな心理描写が絶妙にマッチした物語に惹かれて、あっという間に読み切ってしまいました。このPOPが、より多くの人に『かがみの孤城』を知ってもらえるきっかけになれば幸いです。

佳作

農学生命科学部2年 大橋 茉奈

『ゆがみちゃん：毒家族からの脱出コミックエッセイ』原わた著

今回、佳作を受賞できたこと、大変嬉しく思います。ありがとうございます。私がこの本を手にとって読んでみようと思ったのは表紙の絵に惹きつけられたからです。このジャンルに特別興味があったわけではないのに自然とこの本に手が伸びていました。そのくらい表紙というのは影響力があると思うのです。今回のコンテストで私のPOPも、多くの人にとってのこの本に手を伸ばす‘きっかけ’となれば幸いです。

たくさんのご応募、ご投票本当にありがとうございました。受賞POPと該当図書は本館2階企画展示コーナーで引き続き展示する予定ですので、気になる本がありましたらぜひ借りてみてください。

受賞者発表についてはこちらのURLかQRコードからご覧になれます。

http://www.ul.hirosaki-u.ac.jp/guidetop/pop/pop5_kekka.html



本との 出会いを 楽しむ

第 23 回

社長の本棚

「学問の散歩道」

榊原 彰

弘前大学人文学部経済学科卒業。1986年日本アイ・ビー・エム株式会社に入社。2005年、IBM 最上位技術職であるディステイングイッシュト・エンジニアに任命。その後同社東京基礎研究所にてソフトウェア工学の責任者、グローバル・ビジネス・サービス事業 CTO、スマーター・シティ事業 CTO を経て、2016年日本マイクロソフト株式会社に執行役員 最高技術責任者として入社。2018年よりマイクロソフトディベロップメント株式会社 代表取締役社長を兼任。



インターネットが一般的に使用されるようになってからのここ 25 年ほどの世界の劇的な変化には目を見張るものがあります。クラウド技術とスマートフォンによって、私たちは常時ネットに接続できる環境を手に入れたことによって多くの文献を簡単に探し出すことができます。それらを移動の最中に見ることも可能ですし、他人と瞬時に共有することもできます。仕事や勉強に必要な情報だけではなく、エンターテインメントやショッピング、レストランの予約等、生活の様々な場面でこのテクノロジーが役に立っています。このテクノロジーは、経済の在り方も変えつつあります。車、宿、ファッション、施設等、私たちの身の回りのモノは所有する経済(オウンド・エコノミー)から、共有する経済(シェアリング・エコノミー)へと変わりつつあります。シェアリング・エコノミーにおいては需要と供給の「神の見えざる手」はクラウドの上で機能しているのです。

これらの変化においては、物事を多様性をもって見る考え方が非常に重要です。このような時代に求められるのは「マルチ・ディシプリン(複数領域)」を網羅する動き方であり、さらにそれらの領域を組み合わせるさらなる独創性を発揮する「インター・ディシプリン(領域連携)」な活動です。もちろん1人1人がいくつもの専門領域を網羅することには限界がありますから、得意な領域をもつ複数人が専門性を柔軟な姿勢で持ち寄る必要があります。しかしそもそも個々人のレベルでこうした領域の多様性を受け入れる素地がなければイノベーションは生まれません。ですから私たちは専門性を磨くとともに、他の領域にも興味をもって知識や経験を探求する努力を続けなければならないのです。

私が今回ご紹介する『虚数の情緒～中学生からの全方位独学法』は、まさにこうした領域の壁を越えた考

え方を提示している大著(総ページ数は1,000ページに及びます)です。2000年に初刷が発行された本書は約20年が過ぎた今でも普遍的な示唆に富み、著者の吉田武先生の主張は色あせることがありません。私たちにとって学問は学科・教科に分類された単独の領域ではなく、考え方が関連しあい文化を形づくるものであることが良く理解できます。本書においては虚数の在り方を軸に人類の文化を包括的に把握するという試みがなされています。『中学生からの～』とありますが、社会経験を積んだ大人にこそ読んでいただきたい名著です。数学を軸にして芸術や歴史、哲学等に言及している壮大な新教養書となっています。ダグラス・ホフスタッター著の『ゲーデル、エッシャー、バッハ - あるいは不思議の環』(GEB)も同様のアプローチを試みた大著だったと思います。しかし、GEBが相当難解な抽象概念や複雑な文章表現を用いているのに対し、吉田先生は、概念を分かりやすい例で提示したり平易な文章で論じてくださっており、数学が嫌いだとか論理学が苦手という方でもあまり苦勞せずに読み進められるのではないかと思います。少しでも興味がわいた方は是非お読みください。全国学校図書館協議会選定図書にもなっている(2000年発行なので)20世紀最後の名著であることを保証します。

本館所蔵

『虚数の情緒：中学生からの全方位独学法』吉田武著	410 Y86
和図書(第1書庫 2F～5F)	
『ゲーデル、エッシャー、バッハ：あるいは不思議の環』ダグラス・R.ホフスタッター著	141.5 H81
開架図書(本館 2F)	



Library's Half Year

2019.5～



5月	5/28 データベース講習会 (間蔵IIビジュアル、ヨミダス歴史館、 ジャパンナレッジ)
	5/29 POP コンテスト作品募集開始 (～7/31)
	5/27 Book Hunting 参加者募集開始
	5/31 豊泉49号 WEB 公開
6月	6/1 弘前大学 70 年史刊行
	6/4 Westlaw Japan 講習会
	6/17 電子ジャーナルの利用に関する アンケート実施 (～6/28)
	6/27 Web of Science 講習会
	6/29 第5回 Book Hunting 開催
7月	7/1 官報情報検索サービス利用開始
	7/11 日経 BP 記事検索サービス講習会
8月	8/7 POP コンテスト展示開始
	8/10 オープンキャンパス
	8/20 弘前大学市民 Day (～8/21)
9月	9/24 文献検索ガイダンス (秋季) 開始
10月	10/2 電子ジャーナルの利用に関する アンケート調査集計結果公開
	10/26 弘前大学総合文化祭 (古本市) (～10/27)
	11/1 利用者アンケート実施 (～11/22)
	11/13 POP コンテスト表彰式
11月	11/29 豊泉50号 WEB 公開

弘大図書館では毎月様々なイベントを行っております。4月から開催されていた基礎ゼミ向け図書館ガイダンスや文献検索ガイダンス(春季)に加え、5月からはデータベース講習会も開催されました。図書館では多くのデータベースを契約していますので、調べたいことに合わせてぜひご利用ください。

POP コンテストの作品募集や、第5回 Book Hunting の参加者募集も5月から開始されました。Book Hunting とは、図書館に置いて欲しい本を学生が選ぶ企画です。学生と図書館職員と一緒に書店へ行き、その場で本を選びました。(次回は12月7日実施予定)

8月からは POP コンテスト応募作品の展示が始まり、オープンキャンパス、市民 Day ではたくさんの方々にご来館いただきました。弘大図書館は普段から誰でも入館することができますが、こういったイベントを来館のきっかけにいただけるのはとても嬉しいです。

9月後半には、後期開始に向けて文献検索ガイダンス(秋季)が始まり、10月の弘前大学総合文化祭では、図書館の古本市にたくさんの方が訪れました。古本市では毎年、弘大図書館で重複・不用となった図書を皆さんに再利用(リユース)していただくために無料で提供しています。

11月からは、図書館の利用状況等を把握するための利用者アンケートを開始しました。



寄贈図書紹介

本学関係者の著作で、図書館に寄贈された図書資料をご紹介します。(平成31年4月～令和元年9月受贈分)

寄贈者	書名	著者・編者	出版社	冊数	所蔵先
五十嵐 勝朗 (鵬)	記憶のラブレター 北国に暮らす医師からの伝言	五十嵐 勝朗	ポリッシュ・ワーク	1	分館1
今泉 忠淳 (医)	写真集 味噌屋醬油屋50景	今泉 忠淳	北方新社	2	本館1/分館1
今村 義典 (鵬)	それ、本当に認知症ですか	今村 義典	幻冬舎	1	分館1
尾崎 名津子(人)	織田作之助 女性小説セレクション 怖るべき女	織田 作之助 尾崎 名津子	春陽堂書店	1	本館1
小野 真吾 (鵬)	こころにもからだにも効く漢方	小野 真吾	中外医学社	1	分館1
上條 信彦 (人)	東日本出土土の粒形質・DNA分析(日本の出土土:4)	田中 克典 上條 信彦	弘前大学人文社会科学部北日本考古学研究センター	1	本館1
上條 信彦 (人)	福島県荒屋敷遺跡の漆工芸 出土漆器のX線CT分析成果報告書	片岡 太郎	弘前大学人文社会科学部北日本考古学研究センター	1	本館1
上條 信彦 (人)	岩木山麓における弥生時代前半期の研究 砂沢・廻堰大溜池(1)・清水森西遺跡発掘調査および津軽平野弥生前半期遺跡の土器圧痕調査報告	上條 信彦	弘前大学人文社会科学部北日本考古学研究センター	1	本館1
金 正道 (理)	フuzzy集合最適化	金 正道	弘前大学出版会	2	本館2
中村 光男 (名)	講演スライド集 2007-2014	竹内 正	竹内 正	2	本館1/分館1
花田 勝美 (鵬) (名)	たのしく学べるミネラル講座～皮ふからみえる欠乏症・過剰症～	花田 勝美	弘前大学出版会	1	分館1
花田 勝美 (鵬) (名)	子どものための紫外線講座 ひなちゃんとおひさま お母さんと読む絵本	花田 勝美	アクセス21 出版有限会社	1	分館1
花田 勝美 (鵬) (名)	お母さんのための皮ふ科学講座 アトピーっ子のなぜなぜ お子さんと読む絵本	花田 勝美	アクセス21 出版有限会社	1	分館1
弘前大学出版会	野球検診手帳	弘前大学大学院医学研究科整形 外科科学講座	弘前大学出版会	3	本館2/分館1
弘前大学出版会	人と建物がひらく街の記憶-山形県鶴岡市を訪ねて(2)-	高瀬 雅弘	弘前大学出版会	3	本館2/分館1
弘前大学出版会	電子情報工学実験I実験の手引き(2019年度版)	弘前大学理工学部電子情報工 学	弘前大学出版会	1	本館1
弘前大学出版会	機械科学実験・実習テキスト(平成31年度版)	弘前大学理工学部機械科学科	弘前大学出版会	1	本館1
弘前大学出版会	知能科学・医用科学実験・実習テキスト(平成31年度版)	弘前大学理工学部機械科学科	弘前大学出版会	1	本館1
弘前大学出版会	弘前大学七十年史	弘前大学創立70周年記念事業運 営委員会70年史編纂専門委員会	弘前大学出版会	3	本館2/分館1
弘前大学出版会	フuzzy集合最適化	金 正道	弘前大学出版会	3	本館2/分館1
弘前大学出版会	政治をいかに教えるか-知識と行動をつなぐ主権者教育-	蒔田 純	弘前大学出版会	3	本館2/分館1
弘前大学出版会	教科書と一緒に読む 津軽の歴史	小瑠 史朗 篠塚 明彦	弘前大学出版会	3	本館2/分館1
弘前大学出版会	通信工学～情報メディアの基盤を支える技術～	吉岡 良雄 長瀬 智行	弘前大学出版会	3	本館2/分館1
弘前大学出版会	青森の文学世界：北の文脈を読み直す	郡 千寿子 仁平 政人	弘前大学出版会	3	本館2/分館1
弘前大学出版会	電気系の複素関数入門 = Introduction to complex functions for electrical engineering	吉岡 良雄 長瀬 智行	弘前大学出版会	3	本館2/分館1
社会言語学研究室 (人)	これさえあれば！！「やさしい日本語」作り方ガイドブック (カテゴリー1 対応)	弘前大学人文社会科学部社会言 語学研究室	弘前大学人文社会科学部社会言 語学研究室	1	本館1
社会言語学研究室 (人)	これさえあれば！！「やさしい日本語」図鑑 (カテゴリー1 対応)	弘前大学人文社会科学部社会言 語学研究室	弘前大学人文社会科学部社会言 語学研究室	1	本館1
諸岡 道比古 (名)	シュリング著作集 啓示の哲学 上	諸岡 道比古	文屋秋栄	1	本館1
保田 宗良 (人)	弘前大学における消費者教育推進の取り組み：弘前大学人文社会科学部消費者教育推進事業報告書(2018年度)	弘前大学人文社会科学部消費者 教育推進事業報告書編集委員会	弘前大学人文社会科学部消費者 教育推進事業報告書編集委員会	1	本館1
山田 巖子 (人)	信仰と芸能(講座東北の歴史:第5巻)	人間田 宣夫 菊地 和博	清文堂出版	1	本館1
山田 巖子 (人)	市民と文化財：博物館的想像「力」 渋沢敬三と今和次郎：民具学・考現学と青森県	山田 巖子	地域未来創生センター	1	本館1
横地 徳廣 (人)	映画で考える生命環境倫理学	吉川 孝 横地 徳広	勁草書房	1	本館1

※敬称略。寄贈者名の50音順。カッコ内は寄贈者所属。

(人)：人文社会科学部、(医)：医学研究科、(理)：理工学研究科、(農)：農学生命科学部、(名)：名誉教授、(鵬)：医学部鵬桜会

◆編集後記

今回、思った以上に大変だったのが、蔵書印を探すことです。前身校は印の現物が少ないため押された図書の方を探しましたが、古い図書ほど綺麗に押されたものが少なく、100冊以上は調べました。(分館 S)

「自分ならどんなものが読みたい？」終始、自問自答しながら魅力的な紙面をめざしました。まだまだ書き足りないことがたくさん。次回ご期待下さい！(雑誌 S)

表紙や全体的なデザイン系を担当しました。見やすくなっているでしょうか。利用者の皆さんの声を取り入れてよりよくなっていきたくて思っていますのでご意見ご感想よろしくお願い致します。(参考 M)

弘前大学附属図書館報「豊泉」 第50号

発行日：令和元年11月29日

発行：弘前大学附属図書館

編集：弘前大学附属図書館広報委員会

〒036-8560

青森県弘前市文京町1

TEL 0172-39-3162

FAX 0172-39-3171

◆◆◆◆◆図書館員ちょこっとコラム◆◆◆◆◆

先日、津軽ひろさき歴史文化観光検定(通称：津軽ひろさき検定)を受験してきました。附属図書館の歴史を振り返る今号の製作をしながら検定の勉強をしていたので、一緒に弘前の歴史を振り返る機会となり、どちらも力が入りすぎてしまいました(笑)。

弘前はかつて陸軍の街でした。太平洋戦争終結とともに陸軍の施設が学校などに転用され、教育学部の図書館は当初、弘前公園内(現在の弘前城植物園敷地内)の旧陸軍兵器庫からスタートしたようです。私は県外出身で進学を機に弘前へ来ましたが、街を歩けば今の自分とつながっている歴史があるのだ、と感じられることがこの街への愛着となっているのかもしれません。

検定は無事、合格！今度は地域の情報もまじえた図書館サービスに生かしていけたら、と思っています。

(すだ くみこ)

p.4-5のクイズ・図書館ヒストリアのこたえと出典

【クイズその1】

現在の弘大生協サリジェ店のあたり

※『弘前大学二十年史』付録(弘前大学、1973年)

【クイズその2】

「花つなぎ」

※『津軽ごぎん刺し：技法と図案集』(誠文堂新光社、2013年)



弘大図書館のtwitterアカウントがあるのはご存知ですか？図書館に関する情報だけでなく、弘大や地域の情報も発信しています。お気軽にフォローしてみてくださいね。

「#弘大図書館」のハッシュタグで、弘大図書館に関するツイートを募集しています。「弘大図書館のここが好き！」「弘大図書館でやってほしいこと」「豊泉読んだ」などなど、たくさんツイートしていただくと嬉しいです。

